

特集 「ウィズコロナ」を生きる 女性のつながり ～悩みによりそう取り組み～



コロナ禍で長期間にわたり、外出や交流の機会が制限され孤立し、不安や悩みを抱えていても誰にも話せないでいる方も多いのではないのでしょうか？

今回は、妊娠・出産・育児・思春期から更年期にわたる女性の健康をサポートしているNPO法人Commune with 助産師（以下、NPOこみゅーん）と、女性の基本的な人権の確立と地位向上を図ることを目的にDV被害者の支援活動をしているNPO法人いわきふれあいサポートに、女性の居場所づくりやDV被害者支援についてのお話をお聞きしました。

NPOこみゅーん(おしゃべりカフェの運営)

Q おしゃべりカフェ「こみゅーん」について教えてください。

A 昨年4月から、『福島県コロナ禍における女性のつながりサポート事業』の委託を受け、女性のための居場所として、月に1～2回「おしゃべりカフェこみゅーん」を開催しています。孤立しがちな女性の悩みごとの相談を受けたり、楽しくおしゃべりしながら小物作りや料理などの体験を行ったりと、来られた方がつるいで元気になれるような居場所づくりを行っています。

また、おしゃべりカフェでは、生理用品もお配りしています。昨年の6月から11月までの間に、カフェに来られた方が17名おり、生理用品の配布は32件ありました。いわきで生活する女性たちが生理用品の購入に困ることのないよう、フードバンク事業を行う団体の方々とも連携し、食料品配布会にも出向いています。今のところ、参加者の多くは若い女性や子育て中の方です。

相談内容は、子育て(発育、保育園、学校)、就労や経済的な悩みまで多種多様です。対面での交流・相談に不安がある方には、電話やメールでの相談にも対応しています。ご自宅への訪問もできます。



NPOこみゅーんとは

平成18年9月、任意団体Commune with助産師として設立。平成21年4月にNPO法人化。妊娠中から母乳育児卒業期までを中心に、生涯にわたる女性の健康を助産師の専門性で支援する「こみゅーん助産院」の運営のほか、親子フラや交流ひろばなどを行う「こみゅーんクラブ」、研修を受けた子育て経験のあるボランティアスタッフが妊婦や乳幼児のいる家庭を訪問し、話を聴いたり育児や家事を一緒に行う「ホームスタート・こみゅーん」、いのちと性の教育、子育て防災講座などの活動をしています。
問い合わせ先：0246-23-3303



詳しくはこちらから
こみゅーんHP

NPO法人いわきふれあいサポート(DV被害者支援)

※DV(ドメスティックバイオレンス)＝配偶者や恋人・パートナーなど親密な関係にある、またはあった者から振られる身体的、精神的などの暴力による支配のこと

Q どんな活動をしていますか？

また、最近のDVの相談の傾向について教えてください。

A DV被害者の支援活動としては、まず、相談業務があります。相談は専門的な知識を持つ相談員が対応しています。いわき市は人口が多いため相談件数も多く、DV相談だけでなく多岐にわたり、中には性売春の問題などもあり、借金を背負わされ苦しむ女性からの相談も少なくありません。市の補助で運営しているシェルター(DVを受けた被害者が一時的に避難する施設)の活動もしており、被害者を守りながら、本人が望む自立へのサポートをしています。

最近の傾向としては、夫婦間だけでなく、親子間やきょうだい間のDV被害も増えています。内容も身体的暴力の他、精神的暴力、経済的暴力等、複雑で表面化しづらく、被害者本人もDVを受けていることに気づかず疲弊している場合もあります。また、外国籍の女性からのDV被害の相談も多いです。離婚やビザの問題、言葉の問題もあり自立はなかなか困難です。

SNSをきっかけに交際をスタートし、交際相手の男性を頼って県外からいわきに住み始めた女性からの相談も多くなっています。知らない土地で交際相手以外に頼る人がいないため、周囲に助けを求めにくい背景があると思います。離婚や男女問題、配偶者・恋人による暴力に悩みを抱えている方は、まず、私たちの団体へ電話で相談してみてください。

NPO法人いわきふれあいサポートとは

平成19年に県内初のシェルターを設置しました。本人がどのような支援や解決を望んでいるのかを確認し、緊急に避難することが望ましい場合は、一時避難としてシェルターやホテルを案内しています。また、被害者の安全を確保しつつ、転居先の確保、生活用品の支援をしながら、自立生活へのサポートを行っています。また、これまで、10年以上にわたり居場所づくり事業として、月1回のコスモスカフェも開催してきました。東日本大震災以降は女性の暴力相談事業として、月2回(第2土曜日、第4水曜日)の面接相談を実施しています。
問い合わせ先：090-2029-1490 または 090-2029-0997

編集委員の感想

- NPOこみゅーんのスタッフの中には助産師の方もいます。助産師は出産だけでなく、子どもから更年期、高齢期までの女性の困りごと、悩みごとなら何でも相談ののってくれます。特に、妊娠前後、女性は大きな体の変化で不安が募ります。生理についての悩みも打ち明けにくい悩みの一つです。一人で悩まずに気軽に電話相談または訪問してみたいかがでしょうか。
- 幼少期から発達段階に応じた教育が必要だと思います。CAP(Child Assault Prevention:子どもたちがいじめや虐待など、暴力についての正しい知識と自分を守る方法を楽しく学ぶ教育プログラム)を導入する学校が増えると良いなと思います。
- NPO法人ふれあいサポートの方々が24時間体制で、一時保護の活動をしていることを知りました。市からは緊急補助事業としてホテルやシェルター宿泊費の補助はあるものの、食費やその他の自立支援に必要な経費は、賛助会員を募って寄付を集めて運営しているそうです。まだ使える家具家電の寄付も受け付けています。公的機関の支援がさらに必要だと思います。また、この活動を持続可能な活動にするためには私たち一人ひとりがもっと関心をもつことが大切です。
- 自分を大切に、守ることは権利です。自分がDV被害に遭っている事に気づかず、自分が悪いと思い込み苦しんでいませんか？つらい日々を我慢せず、まずは周りに話してみませんか？

